

2026 年（令和 8 年）度事業の基本方針

2025 年度においては、基本財産の変更後に開始した新たな資産運用について、株価上昇および円安基調の影響によりドル建て資産からの利金が増加し、収益は予算を大きく上回った。一方で、AI 等のデジタル技術の急速な進展、多様性を重視する社会的価値観の変化、並びに国際情勢の不安定化など、外部環境は引き続き大きな変動の中にある。

このような状況を踏まえ、2026 年度においては、収益の安定性が確認されるまでの間、大規模な事業拡大は行わず、現行事業の質的向上を重点として取り組む。具体的には、表彰事業の受賞者および助成事業の助成先との関係性強化、並びに自治体等のステークホルダーとの連携深化を通じ、事業の社会的価値の一層の向上を図る。

また、設立 40 周年を迎える 2026 年度を契機として、向こう 3～5 年間の事業拡充及び新規展開を見据え、中長期的な事業構造と持続可能な運営基盤の設計・整備を進める。資産運用については、従来規模の収益確保を基本としつつ、インフレ進行及び物価・人件費の上昇への対応として、収益拡大の可能性を検討する。加えて、新たな公益法人制度及び会計基準への適切かつ確実な対応を進める。

（1）表彰事業

- ・ 福武教育文化賞の価値を更に高めるべく、次世代を先導する独自観点での顕彰を可能とするため、多くの候補者の中から魅力的な活動者・団体候補を選考できるよう、被推薦者を増加させるために、より自治体との関係性構築に注力し、情報収集及び広報活動を強化する。
- ・ 受賞者による地域貢献・活性化活動をサポートすべく、受賞者との更なる丁寧なコミュニケーションを通じて「フォロー助成」の活用を充実させていく。

（2）助成事業

- ・ ローカル財団である長所を更に活かすべく、助成先とのコミュニケーションを質量ともに深化させる。資金面での支援のみならず、助成先に寄り添う財団としての関係性を築く。
- ・ 助成事業の事務处理的業務の委託・外注化を図り、運営面整備や助成先支援深化を推進し、助成先活動のレベルアップをサポートする。
- ・ 検討課題の学校園に対しての（探究学習等）継続助成の在り方を研究し、次年度応募要項への反映を目指す。
- ・ 「ハロー！ミュージアム」事業のスキーム（活動資金調達方法・自治体連携・ファシリテーター養成等）構築を具体化させ、実現に向けてのロードマップをアップデートする。
- ・ 特定助成において、枠組みの再検討（共催事業への転換）と 5 年実施してきた「高校生・大学生アクション助成」については休止し、若い世代への助成の在り方・プログラムを再検討する。

（3）その他

- ・ 40 周年記念事業の柱として、記念誌の発刊、国吉寄附講座開設 10 年と連動して、国吉康雄の顕彰（展覧会）と財団活動の 40 年の振り返りをベースに各種施策を展開する。
- ・ 将来的な収益増を前提として、組織体制、事業活動の規模・運用・新規展開について検討する。
- ・ 現事業活動の深化に伴い、職員負荷の増加を回避すべく、AI 活用や、業務の外注、業務委託の推進と従来業務の効率化・合理化を図るとともに、要員増について検討する。
- ・ 公益法人制度の変更に伴い、財団運営におけるガバナンスの強化、透明性の向上を推進する。併せて、より自由な資金活用が認められることから、中期的収支均衡（黒字は 5 年間で解消・過去赤字と通算可）や、使途不特定財産規制、「予備財産」保有などの制度を活用し、より充実かつ持続可能な財団活動を推進する基盤をつくる。
- ・ 公益法人会計基準の見直しが行われたことに対する対応（2025 年事業年度より 2028 年度までは従来基準適用可）を検討し、準備を進める。

2026 年(令和 8 年)度の事業計画

公益目的事業Ⅰ 教育文化活動支援事業 (定款第 4 条 1 項第 1 号)

(単位：千円)

予算総額 120,620 (2025 年度当初 115,540 今回補正後 109,300) ※共通経費を含む

※別途、公益充実資金へ 70,500 を積立予定

1 表彰事業 予算総額 4,100 (2025 年度当初 5,090 今回補正後 3,780)

福武教育文化賞の目的とこれまでの実績を積極的に発信するとともに、推薦者（特に自治体）との関係性を深め、賞の質を担保すべく推薦件数の増加を目指す。2024 年度から実施してきた選考方法に関する検討会での内容を反映し、従来の選考基準のうち特に重視すべき項目を明確化することで福武教育文化賞の目的にふさわしい受賞者を選考する。

贈賞式は、各受賞者から活動内容と今後についての発表機会を設定するとともにより発信力ある式となるよう、広報活動にも注力する。

福武教育文化賞

《目 的》 岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人や団体を奨励するために賞を贈り、教育文化の振興による魅力的で豊かな人づくり地域づくりに貢献する。

《対 象》 岡山県内に在住又は岡山県に関わりのある者に贈るものとし、岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人又は団体を対象とする。

《推 薦》 岡山県教育委員会、市町村教育委員会等教育関係団体、報道機関等からの推薦

《 賞 》 表彰状、賞牌及び副賞（30 万円）賞は 3～5 件程度

《選 考》 選考委員会で選考し、理事現在数の 2 分の 1 以上の同意を得て理事長が決定

《予 定》 4 月告知、4 月下旬～6 月末推薦受付、8 月上旬選考委員会、10 月 31 日贈賞式予定

2 助成事業 予算総額 68,090 (2025 年度当初 68,494 今回補正後 65,690)

教育文化活動助成は教育及び文化の視点から地域振興を図る活動全般に助成する。公募・特定・受賞者フォロー助成のいずれにおいても、助成先との丁寧なコミュニケーションを図り、資金面支援に加え、寄り添う助成事業を追求していく。その一環として、事前に助成事業の年間の流れやルールを理解していただくオリエンテーション（事前説明会）を今年度も助成事業ごとに実施する。

成果報告会は、オンライン形式と、対面形式の 2 形式で実施する。2025 年度対面形式成果報告会が日程の関係で参加人数が減少したことを踏まえ、開催時期の変更を検討する。助成団体、審査委員等、相互に交流する機会も設ける。

特定助成は従来通り、①先進的事業助成、②グローバル化事業助成、③瀬戸内文化育成助成の 3 分類とする。各活動の内容によっては共催事業としての可能性の検討も行い、併せて審査プロセスや審査委員会への報告内容等について、検討を続ける。なお、「高校生・大学生アクション助成」は新設から 5 年を経過して、申請目的、申請活動の多様化が進んでいる現状から、1 年休止して新たな枠組みの設計を検討する。

(1) 教育文化活動助成（公募助成）

予算額 35,970 （2025 年度当初 35,750 今回補正後 35,370）

《目 的》

教育及び文化の視点から地域振興を図る活動による人づくり、地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待して、教育文化に関する有意義な実践活動等に助成する。

《活 動》

教育及び文化を手段に用いて、岡山県内で実施される地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動を対象とし、申請区分は以下の 4 類型とする。

- 1 地域社会（コミュニティ）の活性化のために取り組む活動
- 2 次世代育成に取り組む活動
- 3 教育の質の向上や普及に取り組む活動
- 4 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

《助成額》 原則 1 件当たりの上限は 30 万円

《期 間》 2026 年（令和 8 年）度中に実施する事業

《審 査》 審査委員会（4 部会 16 名）で審査し、理事現在数の 2 分の 1 以上の同意を得て決定

《予 定》 12～1 月申請受付、3 月審査委員会、4 月事業開始、9 月頃に成果報告会

- ・ 運用面においては、活動内容変更時ルール、助成金使途ルールの周知を図るとともに、成果報告書・会計報告等を精査し公平性を担保する。
- ・ 助成先活動に可能な限り参加し、コミュニケーションを強化するとともに関係性構築に努める。

(2) 福武教育文化賞受賞者フォロー助成

助成予算額 3,600 （2025 年度当初 3,900 今回補正後 3,200）

※助成事業予算総額の内、福武教育文化賞受賞者フォロー助成の助成金として支出する予算額

《目 的》

福武教育文化賞の受賞者に対して、受賞後も継続して質の向上と人づくり・地域づくりの活動を行うことを促すため、受賞後 3 か年 30 万円を限度として申請に基づき助成する。2023～2025 年度受賞者数 12 件を見込む。

- ・ 申請前には必ず事前相談を行い、フォロー助成の目的や趣旨の周知をはかり、申請がスムーズにできるよう案内する。また申請活動視察やフォローアップ等により活動を丁寧にサポートする。
- ・ 広報活動の一環として、フォロー助成を活用した地域活性化の取り組みを具体的な成果とともに積極的に発信していく。

(3) 特定の特色ある活動に対する助成（特定助成）

助成予算額 26,860 （2025 年度当初 26,560 今回補正後 26,276）

※助成事業予算総額の内、特定助成の助成金として支出する予算額

《目 的》

教育文化活動支援の中でも特に「公益性が高い活動」及び「継続的に支援しなければ効果的でない活動」を重視し、活動の性質に応じて 3 つのカテゴリーで助成する。

- ・ 特定助成の趣旨の周知を徹底するとともに、公募助成先と同様にコミュニケーションの強化を図り、活動視察を積極的に実施する。助成先によっては、自立に向けてのシナリオ設計を促すとともにその支援を行う。

- ① 先進的事業助成 助成予算額 24,900 (2025 年度当初 24,100 今回補正後 23,815)
 ※特定助成の助成金予算の内、先進的事業助成の助成金として支出する予算額
 新たな教育文化的価値の創造に寄与する先進的かつ実践的な活動を行う団体等に対して助成する。(対象団体は 2025 年度と同じ)

助成事業名	団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容
① 先進的事業助成	高校・大学等と地域の連携・協働を推進する活動	国吉康雄記念美術教育研究と地域創成講座	才士 真司	1050 万円	国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生活動
		Wellness & Artistic Okayama (略称: WellArt, Okayama)	小比賀 美香子	30 万円	人間味のある医療へ繋がることを目的としたアートワークショップ
		がくまび	松本 竜己	30 万円	GAKUMABI(MMP) 中学生による地域活動(3 年目)
	多様な芸術文化鑑賞支援	霄のサロン	廣岡 辰哉	120 万円	自身の目と感性で作品と相対することを提案し、日本美術に対する先入観や固定概念を排することが大きな目的とし、事前予約制・入場無料イベントである霄のサロンを実施する。そこでの発見を通じて、日々の暮らしにより多くの楽しみや喜びを感じるような内容を構成する。
		一般社団法人クニヨシパートナーズ	伊藤 駿	50 万円	国吉祭 2026 CARAVAN に関連イベント
		「岡山の美術」活性化実行委員会	直原 秀次	200 万円	「岡山の美術」活性化事業
		「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会	伊原木 隆太	30 万円	森の芸術祭を契機とした人材育成の取組
		特定非営利活動法人アートファーム	大森 誠一	100 万円	旭川河畔における拠点形成と地域再生のアートプロジェクト
					岡山河畔芸術祭 2026 の実施。2025 から開始した「月夜の舞流し」は継続実施予定。通年で出会いや交流の生まれる環境づくりをめざし開設した旭坐を拠点に、点のイベントを線のムーブメントに延伸し、さらに面のコミュニティへと拡大していくことを目的とし、旭坐関連・パーマネント事業を、より地元の方を巻き込むことを踏まえて実施する。

助成事業名		団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容
① 先進的事業助成	その他	公益社団法人 岡山県文化連盟	若林 昭吾	150 万円	文化芸術人材バンクを活用した学校出前講座	①文化芸術の優れた指導者を公立小中学校(支援学校を含む)の正規授業に派遣し、子どもたちに「本物の文化・芸術体験」の機会を提供する。 ②地域の文化芸術人材が、自らの作品制作や表現活動の発表ではなく、専門的な知識や技術を提供することにより地域社会に貢献し、文化芸術の社会的価値を可視化する。
		いのちのおはなし岡山	宇野 香織	30 万円	こどもたちの「いきるちから」を応援しよう	子どもたちのもつ「いきるちから」とは、生まれること・育つことがどんなに素晴らしいことであるかを子ども達に伝えることを目的としている。実施プログラムでは、いのちが生まれ(産科)成長する(小児科)診療科で勤務する現役の医療者である医師・助産師・看護師が講師となり、子どもたちを対象に「いのちのおはなし」講座を開催する。

※上記のほか、先進的事業助成として次の助成を行う。

- ・ ハロー！ミュージアム助成[公募：小学 35 校程度]（約 700 万円）
- ・ 高校生・大学生アクション助成は、1 年休止して、今後の新たな展開を検討する。

② グローバル化事業助成

助成予算額 700（2025 年度当初 900 今回補正後 900）

※特定助成の助成金予算の内、グローバル化事業助成の助成金として支出する予算額

多文化共生のネットワーク作りを進める事業へ助成する。（対象団体は 2025 年度と同じ）

助成事業名		団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容
② グローバル化事業助成		INE 居場所づくりネットワーク	片山 浩子	40 万円	多文化共生社会への理解促進と実践者育成	現在の日本は高齢化・少子化が進み、経済の担い手としての外国人材が必要。しかし、現実には日本人と外国人との摩擦や誤解が生じ、真の意味での共生社会が実現しているとは言い難い。そこで、地域社会の日本人に多文化共生への理解を進めて、相互理解の社会づくりを目指す。
		岡山県日中教育交流協議会	鍵本 芳明	30 万円	中国との継続的な教育交流による青少年の国際理解教育の推進	中国の青少年との友好交流を通じて、日本とアジアの平和と繁栄に貢献する青少年の育成を図る活動の一つとして、県内高校生を上海市に派遣し、同世代の高校生との交流事業を行う。

③ 瀬戸内文化育成助成

助成予算額 1,260（2025 年度当初 1,560 今回補正後 1,560）

※特定助成の助成金予算の内、瀬戸内文化育成助成の助成金として支出する予算額

瀬戸内文化の育成、創出のために必要なプロジェクトに対して助成する。

助成事業名		団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容
③ 瀬戸内文化育成助成		SANNAN 犬島プロジェクトチーム	東森 貢	30 万円	地域を愛し地域から愛される子どもを育てる山南ふるさと学習	小学生から学区に出かけ、豊かなふるさとについて調査し、持続可能なまちづくりについて考え発信する地域貢献活動を実施することで、地域を愛し、地域に愛される子どもを育てる。主に犬島・山南地区での展開。
		一般社団法人犬島とと倶楽部	岩井 智幸	66 万円	未来の犬島を「みんなで創る」ワークショップ	新たな交流人口を作るため犬島ならではの収穫体験や食育をテーマにしたワークショップを実施する。また、交流人口から関係人口へ転換するために、島の理解をより深めて犬島を自分ごとと考えてもらう場となるよう、犬島の環境保全を目的とした参加型体験プログラム「手入れリレー」を実施する。
助成事業名		団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容

③ 瀬戸内文化育成助成	瀬戸内国際芸術祭 たまの☆おもてなし 推進委員会	柴田 義朗	30 万円	瀬戸内国際芸術 祭作品『舟底の記 憶』ワークショップ	当委員会は、設立以来瀬戸内国際芸術祭（瀬戸芸）やアートを活用した受け入れ環境の整備、情報発信等を実施。2026 年は瀬戸芸 2025 開催年の翌年でその熱や波を途切れさせることなく維持・波及させることが重要との認識。宇野にある瀬戸芸作品「舟底の記憶」のワークショップを、作家である小沢敦志氏を招聘して開催。同活動を通じてアートが市民生活に溶け込む街づくりを推進する。
-------------	--------------------------------	-------	-------	----------------------------------	---

(4) 公募助成に準じる緊急を要する等の助成

助成予算額 800（2025 年度当初 800 今回補正後 0）

※助成事業予算総額の内、公募助成に準じる緊急を要する等の助成の助成金として支出する予算額

年度途中で申し出のある緊急を要する教育文化活動に対して助成する。

3 研修会等開催事業 予算総額 148（2025 年度当初 1,221 今回補正後 148）

(1) 福武教育文化振興財団フォーラム及び講演会等

2026 年度は、財団創立 40 周年にあたり、開設 10 周年を迎える国吉寄附講座との連動性を強化し、フォーラムは 40 周年記念事業の一環として実施する。一方で、中長期的な視点から、財団としての発信対象の再設定、及び発信内容の方向性やテーマについて検討する。

(2) and F 教室

助成団体・個人に共通する課題（運営・基盤等）を解決することに繋がる実践的なセミナーを複数回実施する。テーマや内容によって、対面形式・オンライン形式とする。参加者間の交流が図れる運営も意識する。

4 調査研究事業 予算総額 1,220（2025 年度当初 1,000 今回補正後 970）

- ・ 公募助成事業趣旨に基づく助成事業について、より検討を深める。公益目的事業の柱となる公募助成については、インフレ基調の世情なども踏まえ、助成額上限の 30 万円、採択助成先数についてなど審査委員・役員等へ案を提示し、その在り方等、協議検討する。
- ・ 世情を反映したり、時代を先取りしたりする新たなプログラムを研究する。
- ・ 中長期の観点から、先進的な助成活動事例や財団運営手法を学ぶための優れた事例の調査研究や意見交換等を実施する。
- ・ ハロー!ミュージアム事業の展開方法についての調査・研究を 2025 年度に引き続き、大原美術館以外でのテスト実施等行う。

5 主催公演事業 予算総額 0（2025 年度当初 0 今回補正後 0）

- ・ 当年においても主催公演事業は行わない。

[参考] この事業は、2018 年度に「新岡山のいろ・かたち」事業（岡山の誇れる文化や芸術、またそれらが交流連携した新たな魅力が発信される公演機会を年に一度、Junko Fukutake Hall で提供する。）として新設したが、同年度ベネッセホールディングス株配当減配時より現在まで休止している。

6 広報事業

予算総額 10,002 (2025 年度当初 10,555 今回補正後 9,650)

(1) 一般広報 予算額 7,822 (2025 年度当初 7,205 今回補正後 7,380)

① 財団公式 Web サイト

教育文化活動助成団体の成果報告書が簡便に検索できるアーカイブと助成先や受賞者の活動を発信している andF サイトを 2022 年度より運営しているが、さらなる充実と活用促進に努める。外部団体とも連携し、助成団体の活動を Web サイト上で発信し、側面的支援を充実させる。

② 財団機関誌「ふえき」

年 3 回発刊の内容充実に努める。

③ 自治体・行政等との関係性充実

福武教育文化賞の推薦、公募助成の周知などをはじめ、財団事業の認知を深めるべく、福武教育文化賞の推薦時期、公募助成公募開始時期を中心に、春・秋に巡回訪問を実施する。

(2) 瀬戸内国際芸術祭広報 予算額 2,180 (2025 年度当初 3,350 今回補正後 2,270)

① 瀬戸内国際芸術祭 2025 報告書完成時に、岡山の協賛企業中心に訪問報告、次回瀬戸内国際芸術祭 2028 への協力要請をベネッセコーポレーションと連携して行う。

② 中学生・高校生を対象とした「瀬戸内スタディツアー」の実施。

7 周年記念事業

予算総額 11,430 (2025 年度当初 5,000 今回補正後 5,000)

- 財団設立 40 周年記念事業を実施する。

① 設立 40 周年記念誌の発刊 (5 月 1 日発刊予定)

② 福武教育文化振興財団設立 40 周年記念事業(仮)

本事業は、岡山大学国吉寄付講座に企画運営を委託し、財団設立の経緯や事業の成果などを調査する調査・記録収集事業、キックオフイベントや岡山県立美術館での展覧会開催を行うコンテンツ開発事業、岡山大学の正規講義として「40 周年記念事業企画運営講義」の新設、それらの記録映像のアーカイブ化及び発信などの要素を連動させて展開する。

8 財団運営

- 2026 年度の財団運営において、注力するポイントは以下の通り。

① ガバナンスの強化 (外部役員+内部統制)

改正公益認定法に基づき、令和 8 年 6 月開催の定時評議員会において外部理事および外部監事を選任し、客観的な監督機能を有する新体制へ移行する。あわせて内部統制機能の点検・整備を行い、法令遵守を基盤とした更なる自律的な法人運営を徹底する。

② 公益目的事業の継続性と中期的収支均衡の管理

改正法による『中期的収支均衡』の導入を踏まえ、単年度の収支にとらわれず、5 年間程度の期間を見据えた計画的な財務管理を実施する。社会情勢や事業環境の変化に柔軟に対応しつつ、中長期的な視点から公益活動の質的向上と持続可能な財務基盤の構築を両立させる。

③ 働き方改革の推進と人事労務体制の整備 (就業規則・賃金体系改定等)

多様な働き方への対応および職員の処遇改善を目的として、就業規則ならびに賃金体系・諸手当の見直しを実施する。ワークライフバランスの推進や昨今の経済状況に即した給与水準の適正化等、働きやすい職場環境の整備を通じて、優秀な人材の確保と組織の活性化を図り、公益活動を支える基盤を強化する。

④ 財務情報の「見える化」と情報開示の促進

法人の財務状況や事業実績について、より平易で詳細な情報公開を推進する。財団公式 Web サイト等を活用した積極的な情報発信により、財務情報の『見える化』を図ることで、社会に対する説明責任を果たすとともに、法人の社会的信頼性の一層の向上に努める。